

今日は。

ネ行の  
アメリカンの  
言葉

# 山陽堂だより 22

著者  
460p

おすめの本  
吉村昭著(1927-2006)

2011年6月(水無月)

三陸海岸  
大津波

「あなたか生まれたとき、  
周りの人は笑って、  
あなたは泣いて  
いたでしょう。  
だからあなたか  
死ぬときは、あなたか  
笑って、周りの人が  
泣くような人生を  
おくりなさい。」



著者が、明治以後、繰り返して三陸を襲った大津波の貴重な証言・記録を採掘して、41年前に刊行された。明治以来何度も津波を体験した当時の老人のことは、「津波は、時世が変わっても

なくならない、必ず今後も襲ってくる。しかし、今の私たちは色々な方法で警戒しているから、死ぬ人はめったにいないと思う。」しかし41年後の今年、3月11日、津波は多くの人をこの世から連れ去ってしまいました。

「色々な方法」で警戒していたはずなのに。  
「色々な方法」ってなんだったのでしょう。もう一度しっかりみんなが「色々な方法」を今こそ見直して学ばせてもらわなければ。  
最後に昭和8年の大津波で生き残った少女の作文を、

「私は、私のおとうさんむたしかに死んだらどう思うかと、なみたかかできてまいりました。下へおりていって死んだ人を見ましたら、私のお友だちでした。私は、その死んだ人に手をかけて『みきさん』と声をかけますと、口からあわかできてきました。」

この本をよんだら、今回の津波は、想定外の出来事ではなかったと、田いっよになりました。

by 読者

三陸海岸大津波より

この地方では、死人に親しい者が声をかけると口から泡を吹出すという言い伝えがある。(中略)幼い少女の死体をかかっていた人たちは「親しいものが声をかけたから」と、涙を流したという。

# ギャラリー山陽堂のこと

未来ちゃん出版展も 明日6月25日でおしまい。  
初めての企画展を「未来ちゃん」でいじめられたこと、  
これは ほんとにも意味のあることでした。

写真集「未来ちゃん」は、この本に登場する女の子たちを  
言っているのではありません。この写真集にうつる  
空も海もヤキもケキも、未来ちゃんか肩にのっか  
ている和尚さんも すべてか、写真家 川島小鳥さん  
が感じたまさに「未来」なのです。

レジでお客さまか言いました。

「この写真見てたら なんか涙かでてくるんですよ。  
たいせつに育てられていた頃を思い出すからかあ...  
2階のギャラリーからは 笑い声もきこえます。  
「今まで写真集買ったことないんですけど」というお客さまも。

「家族で笑った」「やさしい気持ちになった」

「未来ちゃんをみると やさ気かている」

「私も『未来ちゃん』のように真けんにはまる」

「こどもかほしいと思いましたが」  
「悲しくておの<sup>1</sup>ウルウル  
してました」

「ついつい何度もページをめくってしまう」

「新生活の元気、ありがとう! かんはる★」



「生きるエネルギーをたくさんもらった」などなど

こんなイラストつきで、こどもかたへたくさんか送られていました。  
ギャラリーはあいてあるノートにも

こどもの  
顔をも  
しめろ!

7/2(土)~14(木) 『絵のシルク』 安西水丸さん個展

あの、安西水丸さんか山陽堂で個展をひらいて  
くれたさるなん? それもこの場所か開けることを  
「光学の極み」と。それは山陽堂か言うべき言葉です。感謝!